

平成27年度 第1回苫前町総合教育会議議事録

1 日 時 平成28年2月26日(金) 午前10時～午前11時30分

2 場 所 苫前町役場3階委員会室

3 出席者 (構成員)

苫前町長 森 利 男

(教育委員会)

委員長 花井秀昭

職務代理者 池田民治

委員 大矢根 まき

委員 坂川 資 樹

教育長 池田文敏

(構成委員以外の出席者)

山田副町長、小澤総務財政課長、開発管理課長、泉社会教育課長、宮前総務係長

(傍聴者) 4名

4 会議内容

午前10時開会

(開会宣言)

森 町長 皆様おはようございます。大変ご多用な中をお集まりいただきましてありがとうございます。日頃から教育全般について大変ご尽力いただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

定刻になりましたので、ただ今から「第1回苫前町総合教育会議」を開催したいと思います。

会議に入る前に本日の会議の公開についてお諮りをさせていただきます。

お手元の要綱の第6条に「会議の公開」にかかる規定がございますが、また、総合教育会議については「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」がありまして、その中でも原則公開となっておりますので、傍聴を許可したいと思いますのですが、よろしいでしょうか。

(出席委員より「はい」の声あり)

「異議なし」とのご了解を頂きましたので、それでは、要綱第6条に従いまして、傍聴人の入場を許可いたします。

(傍聴人入場)

それでは改めまして、「第1回苫前町総合教育会議」を開催いたします。

進行につきましては、会議の主宰者であります私が務めさせていただきますことをお許し頂きたいと思っております。

会議の開催に当たりまして、ひと言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

(町長あいさつ)

森 町長 それでは、あまり長い時間ではございませんがご挨拶申し上げます。

先ず改めまして、傍聴人も入りましたので本日はお忙しい中お集まりを頂きました。誠にありがとうございます。

本日は、お忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

教育委員の皆さま方には、日頃より本町の子ども達の教育の充実、発展のために、ご尽力をいただいておりますことに深く感謝と啓を申し上げる次第であります。

すでにご承知のとおり、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一昨年の6月に改正・公布されてございます。昨年の4月1日より施行となったところであります。この法律の「第1条の4」であります、「地方公共団体の長は、大綱の策定に関する協議及び関係事項について、構成員の事務調整を行うために総合教育会議を設ける」となっているところでございます。時期的には、開催が少し遅くなってしまいましたが、第1回目ということで、本日皆さまにお集まりをいただいたところであります。

1名の方は少し遅れるとのことで連絡受けておりますので、会議は進行をしているところであります。この総合教育会議につきましては、首長である町長と教育委員会が、相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくために設置、開催されるものでありますので、再確認をしていただきたいと思います。

今までも、互いに協議・連携をしながら本町の場合は進めては参りましたが、今後は、今まで以上に教育委員の皆さんと一緒に、連携を図って参りますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと存じます。

開催に当り簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

この後は座ったままで進行させていただきますので、よろしくお願ひします。

それでは、続きまして教育委員会を代表しまして花井委員長よりご挨拶申し上げます。

花井委員長 みなさんおはようございます。

それでは、教育委員会を代表しまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

「苫前町総合教育会議」の設置につきましては、去る1月15日の臨時教育委員会議におきまして、設置要綱についての報告を受け、協議をしたところであります。

このたびの法律改正につきましては、第一に、「教育行政の責任の明確化」、第二に、「首長と教育委員が協議・調整する場として、総合教育会議を置くこと」、第三に、「教育長の事務執行に対する教育委員会のチェック機能の強化」、第四に、「児童、生徒等

の生命又は身体の保護のため、国が教育委員会に指示できる規程の設定」と、この四点が主な改正の概要となっており、首長のもとで地方公共団体が一体となって教育施策を進めるべく、首長のリーダーシップに期待がかかっているところであります。

しかしながら、執行機関としての教育委員会の位置づけは従来どおり維持されており、教育の政治的中立性、継続性、安定性の確保等々、教育委員会の役割の重要性は何ら今までと変わるものではありません。

本日の会議は、町長が招集し教育委員会と協議・調整する場となっており、今後とも、定期的に関催されるということでありますので、今まで以上に双方が連携を取り、苦前町の教育向上・振興のため、また子どもたちの学力向上、体力向上など充実した総合教育会議になることを明確にしていることでありますので、よろしく願いをいたします。

森 町長 花井委員長、ありがとうございました。

続きまして、教育委員のみなさんから自己紹介をお願いしたいと思います。まずは池田民治職務代理者さんと、大矢根まき委員さん、そして池田教育長の順にお願いします。

池田委員 職務代理を務めております池田です。よろしくお願いいたします。

大矢根委員 教育委員を務めさせていただいております大矢根です。よろしくお願いいたします。

池田教育長 教育長の池田でございます。よろしくお願いいたします。

森 町長 坂川委員さんについては、遅れての出席ですのでその時にお願いしたいと思います。ありがとうございました。続きまして、本日の会議の出席者より自己紹介をお願いします。

山田副町長 副町長の山田でございます。よろしくお願いいたします。

小澤総務財政課長 総務財政課長の小澤でございます。よろしくお願いいたします。

開発管理課長 教育委員管理課長の開発でございます。よろしくお願いいたします。

泉社会教育課長 社会教育課長の泉でございます。よろしくお願いいたします。

宮前総務係長 管理課総務係長の宮前です。よろしくお願いいたします。

(協議)

森 町長 ありがとうございました。

それでは会議に入らせていただきます。まずはレジメにございますが、協議事項(1)

「苫前町総合教育会議の運営について」でございます。「総合教育会議」については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に伴い開催するものでございます。その内容について事務局より説明してください。

開発管理課長 それでは、資料No.1及び2について私よりご説明を申し上げます。

お手元でございます資料No.1「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）」と、同じく（抜粋）としております文部科学省が出しておりますパンフレットをご用意いたします。

3ページものの資料No.1については、「総合教育会議」に関連する条文を抜粋しております。第1条の3に「大綱の策定等」、第1条の4に「総合教育会議」の条文が新設されたものであります。また、第21条では「教育委員会の職務権限」が、第22条では「長の職務権限」がそれぞれ示されておりますが、第22条の「長の職務権限」本文中において〔大綱の策定に関する事務のほか〕が追加された内容となっております。また、第23条の「職務権限の特例」の関係、さらに第30条の「教育機関の設置」の関係では、町長と教育委員会の関わりについて補足がされているという内容となっております。

それではパンフレットをご覧ください。

パンフレットの裏面になりますが、「教育委員会制度がこう変わる」というところでございますが、こちらの右側の上の方にポイント3「総合教育会議」と題しまして、「全ての地方公共団体に総合教育会議を設置」というところがあります。

「総合教育会議」につきましては、町長と教育委員会が、地域の課題やあるべき姿を共有し、相互に連携して教育を推進することを目的として開催されるものでございます。会議では、町の教育行政の「大綱の策定」、「教育の条件整備など重点的に講ずべき施策」、「児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置についての協議」のほか、「町長の権限に属する事務」と「教育委員会の権限に属する事務」との調和を図るための調整がこの会議において想定されているところであります。

「総合教育会議」におきましては、教育委員会制度を設けた趣旨に鑑みまして、政治的中立性の要請が高い事項につきましては、議題とすべきではない、ということとなっております。

次に資料No.2をご覧ください。

「苫前町総合教育会議設置要綱」の関係であります。この会議が円滑に運営されるよう必要な事項を定めたものであります。

本要綱につきましては、「趣旨」「所掌事務」「組織」「招集」「意見の聴取」「会議の公開」「議事録の作成及び公開」「調整結果の尊重」「庶務」「委任」、合わせて10条の条文で構成されているものであります。

まず、第1条「趣旨」でございます。本要綱は地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、苫前町総合教育会議を設置するものであります。

次に、第2条「所掌事務」であります。総合教育会議における協議及び事務調整

等について定めております。この内の1として「大綱の策定」、2として「地域の実情の応じた重点事項の協議」、3として「緊急時における対応協議」であります。

次に、第3条「組織」であります。この会議は町長及び教育委員会をもって構成するものであります。

次に、第4条「招集」でございますが、総合教育会議につきましては、町長が招集し、長と教育委員会を構成員として開催されます。また、教育委員会からも必要とした場合、町長に対して会議の招集を求めることができると規定しています。

次に、第5条「意見の聴取」であります。必要に応じて関係職員や学識経験者の出席を求めることができるよう、規定を設けております。

次に、第6条「会議の公開」及び第7条「議事録の作成及び公開」であります。会議につきましては原則公開とするものであります。また会議の議事録を作成し、町のホームページで公表するというものであります。

次に、第8条「調整結果の尊重」であります。双方においてこの会議における事務調整結果は尊重しあうものと定めています。

次に、第9条「庶務」でございますが、庶務につきましては、総務財政課において処理するものであります。ただし、会議の開催及び大綱の策定等に関する事務を教育委員会に委任または補助執行させることもできるとしてこの規程を設けたものであります。

最後に、第10条「委任」でございます。本要綱に定めるものほか「総合教育会議の運営に関して必要な事項」は、別に定めることができるとしております。

以上で資料No.2の要綱の説明といたします。

合わせて資料No.1, 2の説明を終わらせていただきます。よろしくお申し上げます。

森 町長 ただ今資料1、資料2の説明を事務局から申し上げました。ここで坂川委員さんがいらっしやいましたので、今一通り各委員と職員の自己紹介が終わりましたので、大変恐縮であります。坂川委員から自己紹介できればお願いしたいと思います。

坂川委員 事情により遅れまして申し訳ございません、お詫び申し上げます。坂川資樹と申します。職業は晃徳寺住職をさせていただいております。社会福祉法人苦前保育園の理事長を昨年から務めさせていただきながら、地域では剣道の指導者として微力ながら務めさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

森 町長 ありがとうございます。

それでは本題に入らせていただきまして、ただ今資料No.1、資料No.2についての説明でしたが、法の趣旨に則り、町長と教育委員会が連携して教育を推進していくために、総合教育会議を設置するものでございます。ご理解、ご協力のほど、お願いいたしますとともに、ただ今事務局が説明しましたことに何かご意見等ございませんでしょうか。

いかがでしょうか。

(少しの間があり)

森 町長 どんな小さなことでも結構ですので、忌憚のないご意見をお聞かせください。資料1、資料2の関係です。
ありませんか。

(「ありません」の声あり)

森 町長 それでは、ないということでありますので、次に進めさせていただきます。また、全体の中でご意見をいただければと思います。
それでは協議事項(2)「苫前町の教育に関する大綱について」でございます。事務局より大綱についての説明をお願いいたします。

開発管理課長 資料No.3の関係であります。

今回の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正につきましては、教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、さらには地域の民意を代表する地方公共団体の長との連携の強化を図ることなどを目的に行われました。この改正において、地方公共団体の長と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より民意を反映した教育行政を推進していくため、総合教育会議を設置することとしたものでございます。

また、近年の教育行政においては、福祉や地域振興などの一般行政との密接な連携が必要となっていることから、地方公共団体の長に大綱の策定を義務づけることにより、地域住民の意向のより一層の反映と地方公共団体における教育、学術及び文化の振興に関する施策の総合的推進を図ることとされております。

改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、地方公共団体の長は、教育基本法第17条第1項に基づき策定された国の教育振興基本計画の基本的な方針を参酌し、その地域の実情に応じ、町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとされております。策定の際には、あらかじめ「総合教育会議」において協議するものと定められております。

前段が少し長くなりましたが、このような説明の下、地方公共団体においては、教育基本法第17条第2項に規定する教育振興基本計画の定めがない場合、それに変わる計画として「市町村が定める総合振興計画」の中における教育に関する項目や目標、また施策の根本となる方針の部分を大綱として位置づけることができるとの観点から、地方公共団体の長が「総合教育会議」において教育委員会と協議した上で、当該総合振興計画をもって大綱に代えることと判断した場合には、新たに大綱を策定する必要はないこととされているものであります。

なお、町においてはこのような趣旨に則り、「苫前町総合振興計画」をもって大綱とする方向性であり、また教育委員会ではそのことを想定した上で、去る1月15日開催

の第1回苫前町教育委員会臨時会において同振興計画で大綱とするに異論がない旨協議済みでありますことを申し添えさせていただきます。

それでは、説明に入らせていただきますが、資料No.3の関係は「第4次苫前町総合振興基本計画（後期基本計画）」、こちらをご覧くださいと思います。苫前町総合基本計画は、本町のまちづくりの長期展望の目指すべき方向性と、その実現のための施策を明示した本町の最上級計画として、後期基本計画として平成23年3月に策定したものでございます。

本計画は平成18年度から平成27年度の10年間をもって計画策定したもので、「序論」として資料の5ページから8ページにおいて、第1章「計画の概要」、第2章「苫前町を取りまく社会。経済状況の変化」、第3章「苫前町のまちづくりの課題」としております。

また、12ページから24ページの基本構想においては、第1章から第4章までの構成となっており、第1章では、「まちづくりの基本目標」について、第2章では「まちづくりの構想と将来像」について、第3章では「基本構想の推進の方策」について、第4章では「まちづくりの施策の大綱」としております。

さらに、25ページから26ページの基本計画では、「後期基本計画」として平成23年度から平成27年度の5か年をくくり、第1部では「総論」、第1章「基本計画の目的」、第2章「計画期間及び計画の主要指標」を示しております。

また、27ページから30ページの第2部では「まちづくりを推進するために」として、第1章「住民参画の推進」、第2章「行政運営の推進」、第3章「広域行政の推進」、第4章「財政運営の健全化」について示しております。

さらに、32ページから98ページでは「各論」として、4章構成で計画を示しております。第1章では「住みよい町の快適計画」、第2章では「心ふれあう町の健康計画」、第3章では「心ゆたかな町の創造計画」、第4章では「活力ある町の躍動計画」として示しております。従いまして、この度の「苫前町の教育に関する大綱」は、この各論に示しております65ページから78ページの第3章「心ゆたかな町の創造計画」のうち、第1節「学校教育」、第2節「各世代教育」、第3節「芸術・文化・文化財」、第4節「図書活動」、第5節「スポーツ・レクリエーション」、第6節「国際化・国際交流」、第9節「男女共同参画・人権」の内容を持ってただ今申し上げております「大綱」と位置づけるものであります。

なお、平成28年度以降における「第5次苫前町総合振興計画（前期基本計画）」の策定については、来る3月開催の苫前町議会定例会において議案提出の予定となっております。従いまして、平成28年度以降における大綱に当たっては、同総合振興計画策定後速やかに策定することが望ましいと考えております。

以上で資料No.3についての説明といたします。

基本的に総合振興計画を大綱としての位置づけとすることの基本内容となっておりますので、よろしくご協議願いたいと思います。以上です。

森 町長 説明が終わりました。

なお、「大綱」については町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策につ

いて、その目標や根本となる方針を定めたものでありますので、詳細な施策について求めているものではありません。

その上では「苫前町総合振興計画」は苫前町の実情に応じた総合的な計画であり、「苫前町の教育に関する大綱」と位置づけることに相応しいと考えるところであります。

資料についてはページが飛んでおりますが、65ページから79ページの間に「心ゆたかな創造計画」として学校教育から書かれておりますけれども、この部分から特にご覧頂きながら、何かご意見がありましたらお願いしたいと思います。

資料は事前配付されておりますので、一読されているかと思っておりますので説明はこの程度にしておきまして、ご意見を伺いたいと思っておりますがいかがでしょうか。小さなことでも発言をしていただければと思います。

(少しの間があり)

森 町長 もしなければ皆様の賛同を得たものとして「苫前町総合振興計画」を苫前町の大綱ということで定めることにしたいと思います。

それでは協議事項(3)「その他について」でございます。事務局より説明をお願いいたします。

開発管理課長 それでは資料No.4をご覧ください。この資料については、『Q & A改正地方教育行政法 新教育委員会制度のポイント』の関係を抜粋した資料です。

ここでは「総合教育会議」と「大綱」の関係分を抽出してまとめた資料としております。詳細についての説明は割愛させていただきますので、お目通しいたき業務の参考としていただきたいと思います。

以上で資料No.4の説明とさせていただきます。

森 町長 ただ今事務局より「総合教育会議」関係で54ページから74ページ、「大綱」関係では75ページから86ページということで資料として添付をさせていただいております。これも事前配付をしておりますので、一読されていると思います。何かご意見がございましたら伺いたいと思います。

(「特別ありません」との声あり)

森 町長 資料関係は事前配付をしておりますので、皆様方においては一読されていると思いますので先に進めさせていただいて、この後テーマを設けてお話を伺う予定としております。

とりあえずないようであれば次に進めさせていただきたいと思いますが、ご了解いただけますでしょうか。

(「はい」の声あり)

森 町長 ありがとうございます。

それではないようでありますので次に進めさせていただきます。

続きまして、レジメ4の「意見交換」に移らせていただきますが、本日は二つのテーマを予定させていただいております。

一つは「教育に関する思い」についてでございますが、初めての会議ということでもありますので、教育委員として日々活動されております中で感じていらっしゃるなどについて、お話しいただければと思っています。ここからは自由な発言としてより具体的に進めたいと思います。どなたからでも結構ですので切り出していただけないでしょうか。

はじめに指名をさせていただいて、花井委員長の方から何かありましたらお願いします。教育に対する、今まで数十年携わっていただいていたその思いなどを含めてご発言いただければありがたいと思います。

花井委員長 最初ということで、学社融合を含めてこれまで携わらせていただいているんですが、子どもたちの数が少ない部分もありますけれども、みんな一生懸命やってくれていると思います。学力調査の結果も常に上の方に位置している部分で、少人数がダメという意見もありますけれども、苦前の場合は先生方も頑張らせていただいて、少人数教育の利点が出ているのではないかという気がしています。

小学校2校については平成28年度に改築が終わって、全ての学校の耐震化が終わるということですので、それらをもっと有効に活用した、特に古丹別小学校は完成して授業などを観させていただいたなかでは、私たちが思いもつかないような使い方をしているという部分で驚かされた面もあります。そこは苦前小学校も含めて大いに活用させていただいて、子どもたちの学力を始め体力向上を図って行って欲しい思いで一杯です。中学校については色々予算の関係もあり、中々思うように整備できないところもあるかもしれませんが、今後も子どもたちが自由に伸び伸びと教育活動、それから運動などをやっていけるような苦前町の教育というものを進めていきたいと思っております。

森 町長 ありがとうございます。

学社融合と学力のレベルの話と小学校2校の新築終了が、苦前小学校はまだですが、終了したあとについて思いもつかない活用であるとか、子どもたちが自由に伸び伸びと学べる環境とかというそのような話しを頂きました。

続きまして、池田委員さんお願いいたします。

池田職務代理者 教育に関するということなんですが、教育というのは今一般の会社にしても何にしても人材の不足ということが言われていますよね。ですから、前から思っていたことは頭のいい人を育てることも教育なんですが、地域に残って地域を盛り上げる人材を育てることも教育であると思うんです。ですから、教育行政が主体ではなくて一般行政の方々も教育に対する連携をもう少し持っていただく、やっては頂いておりま

すが持っていただければいいのかなと思います。例えば、予算の関係でも今個別に上げて申し訳ありませんが、モニターテレビが非常に小さくて今は50インチとかの大型画面を使つての授業が理想と思うのですが、今では後ろにいる人が非常に見づらいという話もあります。ですから公平性を保つ意味でも教育にもう少し予算を、緊縮財政というのはわかるんですが、やはり一人一人がちゃんと受けるにはちょっと財政当局に頑張ってもらって是非それを実現していただきたいと思います。

森 町長 今日副町長、総務財政課長も出席しているので、忌憚のないご意見を頂きたいと思います。ただ今のご意見は人材不足、地域の応援団と教育との関連、あるいはまた連携だとか、あるいは教育に予算配分をして頂ければモニターテレビの大型化、私も小さいのは知らなかったんですがその辺の話しをされておりますので、この会議は議事録はしっかりと作成しますので、取り上げて議論していただければなと思っております。

続きまして年数の順番に大矢根委員に発言をお願いします。

大矢根委員 私も今小学生と中学生の子どもがいて今の子どもたちの学力といいますか、学習状況といいますのは私の時に比べると本当にたくさん勉強しているなとも思いますし、先生方も本当に努力されて子どもたちのために頑張っているという点に関しては私は意見することがないぐらいなんですが、これからの社会人となったときに今の子どもたちに求められるものというのは、日々変わっていると思うんですよね。それで、センター試験の内容などもシートが筆記式で思想や想像力の問題が出てくるといった傾向になるということで、ただ学習で何かを覚える、決められたことをどんどん勉強していくというのも大事ですけど、こういう時代だからこそ子どもなりの想像力というか本当に素直な発想というものがちゃんと持てるような環境、これが今の苦前の子どもたちにとってすごく必要ではないかと思ったり、そういう環境を与えるというものもこういう時代だからこそ大人がその環境を作っていかなければならないのかなという思いがあります。多分順位とかも必要だと思うんですよね。勉強させる上では。すごく大事だし子どもたちもそれに対して結果をちゃんと出しているんで、素晴らしいと思うんですが色々な面で自由に色々なことを経験させて、社会に出たときに子どもたちが本当に自分の能力を発揮できるような幅の広い人材になってくれるような教育をこれから苦前が進めていって欲しい内容かなとこのように思います。

森 町長 ありがとうございます。

今実践している小中学校の親としての意見ですけれども、学習状況においては勉強しているということで先生も活躍していると、社会人として求められるのは日々変わってきているので、試験内容も変わってきているという状況もあり、決められたことを行うということは大切ですけども子どもなりの創造のもてる環境づくり大事だと。大人が環境を作っていくことだ。子どもも結果を出してくれている。そのような幅広い意見を出していただきました。ありがとうございました。

それでは次に坂川委員お願いいたします。

坂川委員 私は昨年(2019年)の11月に町内の学校視察に参加させていただきました。その時に古丹別中学校と小学校が連携しまして英語をやっておりまして、全国学力テストの結果も良かったようですし、小学生が中学校に上がって抵抗無く英語に入っていけるということで非常に素晴らしいことだと思っております。

そこでそれを苦前の方でもというか、苦前町の教育として目玉を作って進めるという見え透いた手法は気に入らないところですが、そういう特色を作って教育を進めるという一つの手法として、英語自体は珍しいことではないのですがどうかと思っております。というのは、苦前の子どもたちが地域に残る残らないにかかわらず、英語を話せないと本当に不便で、この間も札幌でのことを言ったらアジア系の人たちも話しているし、エレベーターで「何階を押せばいいですか」なんかを言おうと思ったら先に勝手に押されて、何て言うのでしょうか世界のスタンダードが英語ですので、20年近く前に風車の視察でデンマークに行かせていただきましたが、その時もホテルのカウンターの女性はデンマーク語のほかに英語を話していました。国民全体がそうだということではありませんが、大体英語というのはそういう状態にあるということで、子どもたちの可能性を広げてあげるという意味では一つのツールではないかと思っています。所詮ツールにしか過ぎないんですが、例えば「海外でのホームステイ」とかは74ページにもありますので、これをもっと具体化していただければよろしいのですが。

もう一点違う視点から英語を推すのは、この2月9日に新任委員の研修があり札幌に行かせていただきました。半日の研修の3コマが全て北海道教育委員の方々で民間の方なんです。復命書を出そうと思ってまだ出しておりませんが、教育長すいませんが後ほど提出します。その内の一人の方が北見のICT関係の方でテレビ会議とか色んなことをやっている方でした。その方の提案ということで関係資料も後ほど提出しますが「これからなくなる仕事」というタイトルで、非常にショッキングな内容でありました。意外とそこには一次産業はありませんでした。一次産業は食べる物として人間が生きていく上でどんなに文明が進もうとなくなっていくんですけれども、それ以外の色んな仕事なくなるという、それはICT関係で済む物は済ませられるという考え方で、最初は斜めに考えて見ていたんですがどうもそういうことではなくて、筋が通っていることだと受け止めたんですが、そういうことを考えて行くと子どもたちの尻を叩いて一生懸命勉強させることはいいことなんです、その先のどういう社会があるんだということで、それは決してバラ色の社会ではなくて、それよりもっと創造性を育てるこれはクリエイティブですね、自分が起業ということで業を起こすというのは昔からありますが、何か新しいことができるそんなクリエイティブなことができるような子どもたちになってもらえないかという気がします。そういう意味の一つのツールとしても英語によって世界の色々な場面、色々な国で色々なことがあるということを視野を広げる意味でとても大事なツールで、今はSNSですか、ソーシャルネットワークもですね、私も片手間でフェイスブックをやっていたら結構海外の人が来ちゃうんですね。答えられないので「イエス」とか「ノー」とかしか答えられない

ので、これも情けないといえますか「今あなたは何をしているんですか？」というのが来たんですね。「I am working」としか答えられなかったんです。まあそうでなくて「私はBuddhist templeの住職で…」とかそういうことで、その中から子どもたちが「えー、外国にはそんな仕事やそんなことがあるんだ」みたいな、そういう展開が私にはできるだろうと。そういうことになると思えば古丹別でやられているような、小学校と中学校が連携したような形が素晴らしいと感じたので、是非、これは学校単位の教員を動かすということではなくて町としてもし可能であれば、それ以外のことでもしクリアできることがあればいいんですが、そういう方向を一つ検討いただければありがたいと思っております。以上です。すいません、長くなりまして。

森 町長 先般町内の学校施設の中で連携して英語を古小と古中がやっていると。苦前教育の目玉となる特色を作って教育をしてはどうか。これは私が社会教育を5年ぐらい経験させていただいたんですが、それ以前から苦前教育というすごいガッチリとした固まりがあって、管内的にも苦前教育はちょっとこだわってずっとやっていた時期があったんです。中々すごい、社会教育を含めてですね、学社連携ですから、そういうふうにはやっていた時期があったんでよかったと。苦前教育をきちっとやってもらったらいいなと思って、教育委員会の校長会、教頭会とかも教育委員も一緒に所に出させてもらったときにそのような苦前教育について話しをさせてもらったことがあるんですが、非常に大事な話だと思っておりますので、先ず特色を作る教育方針はどうかと、もっと検討しなければならないのではないかと考えております。

それと今坂川委員が言われた地域に残る、特に英語なんかは大事だ、スタンダードは英語という可能性を広げてあげる、こういう手法みたいなものが必要かなと。それで、もう一つは74ページにありますことを具体会していくことと、違う視点でやってはどうか、民間の方で北見の委員がテレビ会議の展開とかこれからなくなる仕事の話もあったんですが、私も何となく本で読んだことがあるんですが、そのようなことで英語が一つのきっかけを作るのではないかと、実践踏まえてのお話しを頂きました。

そのようなことで全体的にお話しを頂いたところであります。

では最後に池田教育長お願いします。

池田教育長 私も何気なく考えてみました。私も社会教育にいたものですから、学校教育だとか社会教育、その中で教育といわれると学校、家庭、地域、この3つが頑張ってもらいましょう。「どの一つが欠けてもいけませんよ」と良く話しをするんですが、こういうよ立場となって、その前からもそうなんですが、この3つにプラス行政、私自身も含めて町も含めてなんですが、行政がしっかりとした考えを持っていかないとうまく進んでいかなのではないかと考えております。

どうしても何か問題や課題が出てくると、家庭とか学校、地域がというふうには投げたしまうんですね。ではなくて行政というのは肝心要というのは、こういう小さな町の場合は先ずは核となって動いて行かなくては成らなくて、この3つをまとめて行くのも行政ではないかと思っています。

あと、特に社会教育、町長も社会教育を経験されたということですが、今では学社融合も大変進んではいますが、どうしても行事主体だとかになりがちなものですから、やはり社会教育の本来である地域の課題とか問題をもっと深く掘り下げて、町民と一緒にその課題が何なのかだとか、まちづくりというのは社会教育は非常に重要な面がありますので、そういうことも含めて進めていかなければならないと思っています。

森 町長 今、学社の話が出ましたが本町の場合は学社の連携をやっていて、学社融合は管内でも結構いい方だと思っています。池田教育長からは行政もしっかりとした考えを持つ。これって、私は相当前ですが「行政は、教育である」という本を読んだことがあるんですが、これはいつもそういうことを確認しながら行政を担当させてもらっているんですが、やはり行政は教育だなと、まま感ずる所があります。

そこで、今教育長が言うように社会教育の学社融合なんですけど、事業が次から次へと出てくるので、追いつかないのかもしれないのですが、私も個人的には一つ一つの事業をもっと掘り下げて参加している人あるいは、町全体の教育としての部分の面ではどういういい影響を与えているかと。いい影響ばかりではなく悪い影響も含めてですね、次に、私も社会教育を5年やったときには一つ一つの評価を、事業の評価をやってたんです。これはどんなふうプラスになっていて、課題はまだ残っていると次にはどうするかとか、確認をしながらずっと社会教育の事業をやって来た、5年間。で、地域のモデル地区を設定したりして、この地区は社会教育が遅れてるので人的にも社会教育を入れていかなければならないとか、そのような話しを議論しながらずっとやってきたんですけども、中々やはりうまくカチッとはいかないんです。いかないんだけど、担当者が意識してやっていくことでまた全然考え方が違ってきますので、連携できる町内会長なんかもそうですし、コミュニティーの話も全部連携していますので、そんなことも含めてですね、レベルを上げていながらより効果的な社会教育事業を展開していくのが大前提だと思う。それがイコール行政につながってきて、先ほど申し上げました「行政は教育だ」につながっていけば、結構教育が根付いていくのではないかなと私は常にそのように考えているんですが、含めて大変、5名の委員さんから貴重なご意見を頂きました。しっかり記録をしながらこれからのこの総合教育会議を更にレベルを上げていかなければならないと思っておりますので、みんなで事務局も含めて確認をしていただきたいと思います。

それで事務局発言を求めるようになっておりませんが、事務局の方で発言をしたいという方がおりましたら発言してください。

(少しの間があり)

森 町長 事務局には社会教育を卒業して行政に入ってきている職員も多いんです。私と一緒にやった職員には大体は「行政は教育だぞ」と言って、行ったところ行ったところできった意識を持って行政を進めていくときっといい成果が出るのではないかなと思うんですが、中々そう簡単なものではないと思います。

何かございましたら山田副町長何かありませんか。

山田副町長 特にありません。

森 町長 開発課長はどうか。

開発管理課長 特別にはありません。

森 町長 開発課長も社会教育をくぐっている職員です。
泉社会教育課長はないですか。

泉社会教育課長 貴重な意見を聞かせていただいております。現在、第8次社会教育中期計画を策定させていただいております。

森 町長 わかりました。
続いて、「文化・スポーツ振興」に移りたいともいます。この点についてお話を伺いたいともいます。

池田委員 では、私の方からお願いします。

教育行政というのは非常に範囲が広いんですね。今町長が「行政は教育だ」ということを話されたんですが、まさに一般行政と一体となっていかなければというのがほとんどなんです。例えば文化・芸術なんかも今非常に外国の観光客なども多くなってきていて、苫前町の文化とか芸術などを今一度見直して、行政と教育が一体となってどうしていくのかということをして上げていかないといけないと思います。例えば黒嵐事件の施設なんかもそうですが、誰かに任せるのではなくて「どうやったらいいの」という話し合いが果たしてなされているのかなと思うわけです。だから、あれも一つの観光資源として色々今どこでも見られる部分があるから、それもひとつつかされるのではないかなと思うんです。色々考えても何かこう観光資源がないというか、風車ありきなんです。風車と連動させながら黒嵐をもうちょっと発展的に見栄えのいいものにしていくようなことを考えるべきだと思っています。

それと、スポーツの面ですが高齢者が健康でなければならないというのをうたって、ただ長生きしていればいいというのではなくて、健康でなければならない。曾於ために社会教育など色々スポーツを展開をしていますが、今一ですね私も社会教育関係に関わってきましたが具体策がなく、意見というのが中々出てこないんですね会議をしていても。その中でどうすればいいのかということ、このまま続けていくと何ら意味を持たないで消滅していくと思うんです。スポーツを発展的に時間はかかることですが、医療費のかからないまちづくりに向け教育行政だけでなく一般行政と連携を図って進めてもらいたいと思います。

森 町長 そういう意味ではこの総合教育会議を実施することによって、行政の意見を充分反映しながら、教育の意見と共に反映して一体でできるから、私はこういったシステム

の方がいいと感じています。この会議を開催すると聞いていたときから思っておりましたが、今池田委員が言われるように一度町と一緒にって体育については見直して、行政と一体で進めてはどうかということで、今池田委員が言うには今停滞しているのではないだろうかという感覚だと思うんですが、これ以上やっても意味がないのではないかと、意味はあるんだけど、行き詰まっているものもあるのではないかとということなのかもしれません。それはこの総合教育会議の中で議論しながら、行政に今の教育でやっている文化・スポーツの関連は反映していけるものと思っていますので、今日は1回目ではありますが、その辺もきちんと確認しながら進めさせていただきたいと思っております。要は行政が一体となって進めると言うことです。

羆嵐も観光資源としてるんですが、これは北海道開拓悲話ですので、これは過去資源だけれども町の文化というか北海道の文化なんです。そういうものもあって、どっちもどっちだから。今度はきちんと見直しをして、どのような位置づけをしていくかをみなさんで確認をして、町を挙げて一つのもとしてやっていくべきと思います。これは現在行政側で罷事件現場の復元を扱っていますが、資料館は教育委員会の管轄という部分もありまして、ちょっと独立教育委員会だったのを今度はこの会議に出ましたので、多分議会の中でもそのような話をしている方もいると思いますので、学芸員がどうのという話をしている人もいるようですので、しっかりと対応していかなければならないと思っております。今日は1回目で問題提起ということで聞かせていただいております。

あと、スポーツの展開についても今後も繰り返しやっていくと、私も社会教育を5年やったんだけれども、こうやっていくと行き詰まるんですね。これからどう進めるか、人の中で行動を含めてどのようにスポーツを入れていくかということになると思うんですが、そうなってくると一人では持ちきれないことも出てきて連携強化ということになります。これは奥行きが全くない、そして人も変わってくるし、代表者も替わるし、こういうのも含めて一貫した考え方が必要だよとなる。それは行事の反省だとか、議論などをあまりしている暇がないのではないかと、忙しくて。だからそれはわかるので、こういった総合教育会議の中でみんなで確認しながら、こういったステップまで来ているけれども次はどうだといった具体化まで行けばいいんですが、そのためには回数を多くやらなければならないことになりますね。こういう会議はね。ですから担当している職員も結構行き詰まっているのかもしれない。そういう感じもなきにしもあらずなので、そこを確認しながら今後やっていかなければならないと思っております。そこが先ほど池田委員が指摘していた医療費がかからない町民となっていくとか、全て運動していますので、そこを含めて再認識できるのかもしれない。

今回は1回目の会議なので余り突っ込んでやると時間がなくなりますので、ほかに何か各委員の方から、発言してみたいなということがありましたら自由にお願ひします。

花井委員長 私からお願いします。文化・スポーツの関係ですが、私も社会教育委員を20年やらさせていただいて社会教育の中期計画の策定なども関わらせていただいたんですが、特に文化の部分ですが20代、30代の若い人たちが中々参加してもらえないと

いう、特に私もやっていた頃から人口も減ってきている中で、やはり人が減ってくれば必然的にやる人も減ってくるという状況でして、くま獅子保存会にも関わっているわけですが、それらも含めてそういった地域の文化財というものをどう保護していくか、また伝承していくかという部分は重要な問題であると思っています。

また、スポーツの部分においても、そういうスポーツの部分では20代、30代は参加してくれるんですが、逆に年配者の方が中々参加してくれない。町民ソフトボール大会に20チームも30チームの出ていることから見れば今は6チームぐらいですか、そういった面からいうとそれらを全部含めていくと人口が減ってくるというのが全てに関わってくるのかなと思うんです。

よく色々な会議で聞くと、人口減少時代だからといって減っていくことを前提に100%話をしている感じで、何かすごく残念な感じがしています。少しでも割合を食い止めるような施策というか、人口が増えてくればそれなりに文化なり、スポーツなりに参加してくれる人も増えてくる気がしているので、こういったものをどう住民に浸透させていやっていくかということを含めて、それと両輪で人口を減らさない対策というか、そういったものを行政で考えて欲しいという気持ちでいます。

森 町長 スポーツについては何というか、高齢者は高齢者で高齢者スポーツ大会とかをやるんですが結構人が集まる。集まることは集まるんだけど、高齢者も常日頃自分の健康について考えてある程度スポーツと言えるかどうかわかりませんが、家の中でも軽い運動をやったりその意識付けをするべく常にあいさつの中に入れてるんですが、具体的に今どうなっているかというのわかりません。ただ、今言われた若い人たちが少なくなっているから、参加人数も減ってきている。

そこで人口減少問題の関係ですが、私も今町の中を分析しているんですがこれをやったから人口減少が止まるということはほとんどあり得ない。今ね、多分私が行政を担当していて。だから、うちの場合広報にも出しましたが一人生まれたら、二人目が生まれたらだとか、にこにこタクシーだとか、なるべくなんていうか一人で家の中にいらせない。だからにこにこタクシーは400円なんだけど4人で乗ると100円で乗れるから。1年間で96回乗れるんですよ1週間に病院1回と買い物1回で週2回ずつで、96回まで使える。一人で乗っても。これ掛ける2だとか、3だとか4まで使える。4人で乗ったら一人4回だから1年間でにこにこタクシーで4人の仲間を作っておくと買い物をし、病院で薬をもらって楽しくワイワイガヤガヤやるように言っているんだけど、そしたら96回掛ける4回乗れることになるんです。400円で。100円払えばいいんだから。活用するように常に言っていて、70歳以上が対象だから。それとふわっとのいやしふれあい事業などもすごく人気があるんですけど、1年間に10月以降閑散期に1回だけご招待券を発行しているんだけど、それもある老人クラブでは30人とか40人で一遍に泊まってもいいかと私も聞いているんですが、冬の空いているときは一遍に泊まってもいいよって、3、40人泊まってみんな町からの招待券で無料でこんなごちそうを食べさせてもらってすごいよねっていうことを話題にして楽しみながらやっている。それって、生き甲斐対策にもなっているのかなと思っていて、様子を見ているんです。トータルしたら北海道のデータ

なんですが、留萌管内8市町村のうち今人口減少が鈍化しているのは、先日ある新聞に出たんですが、遠別と苫前が人口減少が鈍化してきているんだね。何か一つのことをやったからといって鈍化するのではなくて、色々なことを組み合わせてみて、何ていうんですか今学校が新しくなってペレットを使って循環型社会にするとか、苫前保育園を建て替えるとかね、どっちかという保育所ではなくて教育的配慮のものを含めた施設にしようとしています、そういうようなバランスだね、全体的な行政のバランス、これってとても大事なことって私はやっているんですが、あと公営住宅の問題だとか、そういうような例え不妊治療だって男の人にも交付してますからうちはね。それってあまり交付していないんだわ。さっきも言ったけど子どもなんか4人目で100万円交付でしょ。100万円という数字は全道でも3つか4つか出てないですよ。それは目玉で、アツと思わせるように出しているんだけど、そんなようなことで刺激を与えながらやってたら何となく鈍化してきているのと、一次産業の農業、漁業も結構所得を上げて来てて、うちの町は所得税を納める人が多くなってきているので、それと農業では土地がどこも空いていないですから。漁業も結構ホタテなんかは韓国送りをやっていて、ホタテやナマコ何かが主流で伸びてるから、個人的に思うところではまんざらうちの町は捨てたもんじゃない。そういうような総合的な行政施策をやはりやっていくと、これをやったからいいって言うんじゃないよ。だからバランス良くやっていくと、きっと減っていくとは絶対、高齢者比率は40%ぐらいだから減るんですけども、減り方が少なくなってくるなど。あとは公営住宅も苫前あたりは前倒しをして、新たな人は入れるように建て替えを計画しているんですけど、そのようなこともやっていくときっとそんなにがっばがっば減っていくということにはならないなと思っています。よく状態を見てみると結構いい状況になっているかなと私は思っていますので、それにこの総合教育会議の中で教育を、人の教育、人的教育を入れてバランスを取っていくときっとさらに奥が深くなると思ったりしてるんですけど、その点を意識してほしいと思います。人口減少はこれを行ったからって、外国人をどんどん連れてくるとか、被災地からどんどん連れてきてやるとか、何かそういうのもあるのかもしれないけど、うちの町は一次産業主流の関係で所得もぐんと増えてますし、例えば酪農の方では大矢根委員さんも酪農やさんですが、20戸ぐらいあるけど全て後継者がいますからね。だからね、そんなにね、うちの町はね衰退していつている状況ではないと私は判断していますので、その辺はみんな確認して今度は人的レベルをもっと上げていくとかね、そんなような話で苫前に来たら相違意味で価値観みたいのが高まっていけばいいなと思っていますので、是非この会議に期待をしながら話をしているところであります。

何かご意見があればお願いします。

坂川委員 昨年は町剣道連盟の50周年を迎えられたのは偏に地域の方々はもちろんこと、町長さんはじめ議会の方々や全ての方々のお陰とっております。感動的な50年の節目をやらせていただいた一人として厚く御礼申し上げます。

日頃の活動として苫前側にはスポーツセンターがないので、それを欲しいということではなくてそれに変わるものとして小学校の体育館は開放していただいて、よく考

えまずと冬は灯油を使い、電気を使い、これを我々自己負担無しに使わせていただいて本当にありがたい話だと思い、先ずは大変感謝しております。そういう意味では苦前町はスポーツ振興には非常に前向きに考えていただいていると受け止めております。今後もよろしくお願ひしたいと願っておりますが、財政状況から自己負担が必要との意見も出ているようですので、それはやぶさかではありませんので遠慮なく言っていただければできる範囲でしか出せませんが対応したいと思っています。

森 町長 まだ決めていないですが検討中です。

坂川委員 実は子どもたちがやっているんですが、我々大人も週3回の稽古には全て顔を出せないんですが、稽古をして汗をかくとスカッとするといいですか、私も小さな頃からやって来ていることなので、これを止めろと言われてたらきっと体調を崩すと思っています。そういった体調管理、健康管理の意味ではスポーツは大事だなと思って、良く古丹別のスポーツセンターに行くと小澤課長さんがバドミントンで汗を流している姿を拝見します。

やはりそういったバックアップがあるからみんながそれぞれ汗を流すことができるのであって、そのところは今後も絶大なご理解を頂きたいと思っています。

森 町長 そのように思っただいてありがとうございます。

私たちは逆に剣道連盟が50年ですよ。50年間これだけ組織が持ちこたえるというのは、これは至難の業であると思いますし、今まで指導者とか先生方がずーっと、また歴代役員の方々が本当に支えてやって来たなと思っておりますので、私も一緒になってすごくうれしく感じています。

私も出席させていただいたんですが、関係者が道内各地から来ておりましたが感動しておりましたので良かったと思っています。是非、継続していただいて町でもこういったことをしっかりと確立していかないと何をやっているかわからなくなってしまいますので、それは今後ともこの総合教育会議の中で議論していただいて、今度は通りが良くなるというか、これまでも通りは良かったんですが、更に通りが良くなる可能性がありますので、首脳陣が全て出席しておりますから確認いただいて頑張りたいと思います。

後どうでしょう。

大矢根委員 スポーツの関係で、運動会や体育大会ですごく歯がゆい思いをするようになったんですが、高跳びとか、授業でやっているバスケットやドッチボールとか昔からあるスポーツなんですが、軒並みできないですよ。本当に高跳びなどは小学校の時から少しでもこういうものであと教えておけば、多分中学校の体育大会であんなにジャンプ力のある子どもたちがベリーロールで飛ぶ姿を見ないで済むと思うんです。背面跳びのことも知らないような子どもたちが、体育大会でいきなり飛んでいる姿を見て、私が保育園の時だったら指導してくれる先生が来てくれて、鉄棒とか運動の基礎とかを教えてもらったりとかがあって、もしそのような流れができていようであればもう

ちょっと早い段階から、ルールの意味とかを教えていけばもっと子どもたちが興味を持ってくれるとおもいます。

森 町長 結論的に言うと能力がありそうなんですけど、基本的なことを教えていないからある日突然高跳びだとかをやるというふうになっているのかもしれないんですね。それって、池田教育長の方では今の関係は学校教育の中で出てくるものだと思うんですが、今の話はどうですか。

池田教育長 高跳びや幅と跳びなどは種目にあるんですが、小学校でも町内の体育大会でやっています。競技に種目に高跳び、幅跳びは入っています。授業教材としても砂場がありますので両方ともやっています。

大矢根委員 時間数的にも少ないと思います。

森 町長 野球とかバレーボールなど大きなチームに入っているとそんなことをやっている暇はないわね一人や二人で。そういうのってのはどうなんですかね。

池田教育長 時間的には決められているんですね、体育時間としては。変な話、深くやるというのではなくてこういった種目があるんだという程度でやっているんですね。

森 町長 そういうのはここには出てませんが、校長会とかにある程度図るといふか提案して、そういった意見もあるということで議論してもらう必要はあるね。学校教育でやってもらうことでしょ。外でやるにしても社会体育の人が…。

大矢根委員 授業数の話になるのでそんな簡単な話ではないですね。

森 町長 授業時間も含めて大変なんだ。

大矢根委員 授業外となると予算の関係も出てくるかも知れませんね。

森 町長 例えば高跳びをやる得意な先生がいればいいんだけど、状態をわかって言ってるわけではないんですが、こういうことを教えるとなると案外いないかもしれませんね。

池田委員 それってものすごく大事なことなんだよね。子どもが小学校、中学校で基礎をちゃんと教えてもらうということは自分の先を見つけるといふことにつながるんですね。だからそこで放置してしまえば自分ではできないんだということになって、折角の能力を潰すことになりかねないんですよ。

大矢根委員 見本を見せられないんでしょうね、多分先生方が。

池田教育長 中学校には体育専門の先生がいますが、体育の先生でも種目の専門外だと教えられないというのが結構ありますね。部活でも野球やバレーボール、卓球などがありますが実はやったことがない先生が監督になったりというのが実態ですから。

森 町長 その人の能力で勝手に上手くなる人もいるんですね、卓球だとか何かは。だけど高跳びなんかはわからないな。

坂川委員 そういった問題をクリアする仕組みが73ページに記載しているのが、総合型スポーツクラブなんですね。何でも学校教に求めるのは無理です。

学校困い込み型、企業困い込み型の体育、スポーツというのは日本的なんです。地域総合型クラブというのは例えばサッカーを中心としても色々なスポーツをやるとい指導者がいるという形なんです。日本はそういう面では成熟していない。それを全て学校にというのは不可能です。そもそも組み体操の問題もいつまでこういうことやっているんだろうと思っています。この間観ると10段ですよ、あんなもの危ないことは決まっているんじゃないですか。

そういう意味では発想的なこと自体を変える時期が来ているのではないと思っています。

森 町長 これは学校現場には求めづらいんだけど、そういう希望もあるような話。それはみんなで話し合う必要があると思うんですが、必要だというように子どもが言っていたらね。

池田教育長 今求められる点は体育系ばかりではないんですね。学力もそうなんです。月曜日から金曜日までしか授業時間を組まなくてもいいというのに、土曜授業というのが普通に出てきていますよね。やっている学校やっていない学校と新聞にも出てきますが、あれはやらなくても別に問題はないんです。学習は月曜日から金曜日までやればいいんです。学力を上げるために土曜日もやらせる。やってもいいよとモデル校を作っているけれども、あれはすごく矛盾していることが多くあるんです。

森 町長 これは重要課題として議論してもらおう。今ここでは処理できないね。

花井委員長 中学校、小学校での体育の授業については私も思っていたんですが先生方と話す中では今国方では、やらなくてはならない科目というのが非常に多いんです。小学校でダンスをやらなければならないとか、武道をやらなければならないとか、あれもこれもやれやれということで、バスケットをやる時間数がない中でルールを教えるだけで終わってしまう状況の中では、実際にやるのは難しいんだと、国は一旦ゆとり教育ということで時数を減らしたけれども、今細かな部分をどんどん増やしている傾向で、そこは学校としても大変だと言っています。

森 町長 先生方もすごい過重労働だと言われているでしょ。そういう面を含めてバランスを

取らなきゃダメだ。このことについては話していても結論が出ないので、すごく中身はわかりますけど、池田教育長の方でもっと整理をして、次回何かこう整理をして進めようや。やるかどうかわからないけど、今日始めて総合境域会議をやっているから、教育委員会の全部を知っているわけでもないの、そんなことで処理したいと思いません。

それで、大体いいですか。

花井委員長 苫前町の町民劇とか色々あるんですが、それらに副町長、教育長、課長などがコーラスに参加したりだとか、町民劇には町議さんも参加していただいてりという部分で行くと、ほかの町村から見るとすごくうらやましいと言うことを聞くんですね。

やはり町のリーダー的なところにいる人たちが、そういう部分で参加してくれるというのはすごいありがたいことですし、そう行った地域でもっともっとあって欲しいというか、そういうものに参加するのがダメだというのではなくて、大いに役場の職員は参加してくれとか、町を盛り上げていく部分で行政にいる職員が頑張ってくれば町民の変わると思うので、特に町民劇やコーラスなどは高い評価を得ておりますし、これからももっとやってくれるとありがたいと感じています。

森 町長 私も町職員もどんどん町民劇などに出てやれと言っているから。だから出てるし若い人も。

花井委員長 やはりほかの町からすると「何でうちの教育長は出ないんだろう」と一回言わなきゃダメだなと言う人もいます。

森 町長 うちはその点は、全部参加させてやらせる主義だからみんなに言っているから。本当はね、町民劇がはじまって1, 2年はね、私も出る予定だったんです。だけど出張でいないものだから、その時は代役ができなくなって、私もスカウトされたんですがダメになってしまった。本当は私も出演する予定だった。

コーラスは山田副町長を筆頭にみんなやってるでしょ。

花井委員長 そういった風土というのはやはりすごくいいですね。

森 町長 そういうのは私も大好きだから、どんどん出るように言ってますから。町の職員に限らずほかのところにも言っています。じいちゃんだつてばあちゃんだつて出演するときだつてあるしょ。そういうのに起用してもらってさ、是非それらもみんなでもり立てて、文化発展のためにやっていかなければならいと思ってやっております。

池田委員 ちょっと一つだけ、スポーツのことなんですが、苫前町には農業後継者の若い人たちはたくさんいるんですね。20代、30代いますよね。その方々がスポーツをやるとしたときに、休みがないということで全然参画がないですね。それを町長はどうやって1日の休みを指導できるのかどうか。農協に対して。といった具体策は考え

いるのかどうか。

森 町長 その日だけ行っただって難しいよね。お楽しみコーナーだよ。ここに農家をやっている人は二人いるから。

私は農家だってスポーツをやってそして楽しみながら農業をやる。今うちは農地は空いてませんからね。後継者も全部いますし、例えば九重当たりの懇談会に行っても、後継者が欲しいのかと問いかけても誰も静かにしているよ。一般的には後継者がいないと言っているけれども、農家では後継者が欲しい人って聞いても誰もはいって手を挙げないわね。だからそれはちょっと分かんないんだけど、要はスポーツを1週間に1回位って言ったって、だから休めって言うわけにはいかないわね。農協の組合長とは話してみます。

花井委員長 昔僕等は高校を出て帰ってきた頃は、これだけの施設園芸、野菜はない時代だったから、結構休もうと思えば休めたんですよ。それから経営面積が増えてきて、施設ものが増えてくると中々休みが取れない状況にあるのは確かなんですよ。

特に酪農家の部分については365日仕事が続いているわけですから、それを何とかしようということでヘルパーを入れているんですが、中々ヘルパー自体も取りづらいうい状況にあって、うちのように後継者がいて父親も元気でやっているところでは多少できるんですが、そうでないところではかなり難しいと思います。これからどんどん経営面積が増えて行くと更にその可能性が出てくるのかなと思います。

若い人がいるからということもありますが、もうちょっとスポーツでも文化でも参加してくれればと思いますが、結構大変かと思います。

池田委員 逆に言えば結局昔は花井さんが言ったとおりいつでも休みが取れて、スポーツ関係もたくさんやっていましたが、逆に今は色々なものが進歩していて、こう言うときに全然休みが取れないというのは全く逆になっているような気がしてね、今こういった時代だからこそ休みが取れるとか、そうならないものかと感じます。そうならないと、社会教育でやっているスポーツや行事が立ちゆかないんでないでしょうか。

坂川委員 しかし、それは花井さん達のせいではないと思います。社会というが国のせいというかその部分があるんじゃないでしょうか。

池田委員 そういうのではなくて、このような意見を聞くことができないものかなということなんです。

花井委員長 それで、酪農家の部分についても今岩見でやっている法人にして従業員を雇って、若い人たちに休みをやりとういう考えでやっていますから。そういったことではどんどん変わってくると思うんです。僕等若い頃太鼓をやっていた関係もありまして、土日といったらほとんど家にいなくて、「またか」と怒られたりしたんですが、うちなんかでは息子がいますが用事があれば別にかまわないと思っています。

森 町長 でしょ、やろうと思えばできるんだ。

花井委員長 楽しみながらやるという部分を、これから親も考えて行かないと、そういったゆとりのない農業だとちょっときついですよね。

それは行政どうのこうのというのではなく個々の農家が真剣に考えていかないと、農協が指導したからというのは難しいと思います。

森 町長 勤労の楽しみという人もいるからね。働くのが楽しいという人もいるからね。それはちょっと話題が大きいので農協とも話をしながら、農協ばかりではなく漁協も含めてですね。

わかりました。

あとは大体1時間は位やりましたので、私も昼からいなくなっちゃうんで、よろしいでしょうか。1回目の会議ですから、2回3回と今後担当の方に言っていただければ、私の日程と合わせて是非やりたいと思っております。

では個々で、次回の開催時などについて事務局より説明してください。

開発管理課長 先ほど大綱の策定のところで説明をいたしました、平成28年度からスタートいたします「第5次苫前町総合振興計画（前期基本計画）」がこの3月議会で策定となるということで、これらを踏まえまして後を早めの時期に開催したいと考えているところであります。第4次関係はこの3月で終了を迎えますので、それらを考えますと、町長と教育委員会との日程調整が必要となるところですが、できれば4月下旬頃に平成28年度の第1回目の会議ということで開催を計画したいと考えております。今のところでは4月25日の週当たりで調整が取れればと考えております。

以上、よろしくお願い申し上げます。

森 町長 ただ今4月25日の週4月下旬ですが、この会議は結構深い会議なので、できれば早め早めの通知を出していただいて、みなさんで事前に調べてきていただくこともあるかもしれませんので、是非充分に議論をして一回一回を充実した教育会議にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思います。

開発管理課長 最後に確認ですが、意見交換の題材についてですがこの度は（１）（２）と大きな枠組みで設定させていただきましたが、次回以降についてはその都度必要事項を項目立てしながら進めてまいりたいと考えております。委員会側及び町長部局からの議題選定をしながら進めたいと考えますのでよろしくお願いいたします。

森 町長 次回の開催時間の希望などありませんか。

（意見なし）

森 町長 大変本日の会議短い時間でありましたが、皆様方からは貴重なご意見を頂きありがとうございました。次回は平成28年度スターとなりますが、4月25日に週の下旬当たりでの開催となります。是非一体でこの苫前町総合教育会議を更に内容の濃いものにして行政に、教育に対応して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。